

令和5年度 事業計画

社会福祉法人 八起会

- 法人本部
- 石部ケアハウス
- 石部デイサービスセンター
- 八起会居宅介護支援相談所
- 介護老人保健施設 石部ケアセンター（デイケア併設）
- 八起会ホームヘルプステーション
- 介護老人福祉施設 もみじ
- もみじデイサービスセンター
- もみじケアプランセンター
- 特別養護老人ホーム あぼし
- デイサービスセンターにこにこ
- 地域密着型特別養護老人ホーム みやのもり
- みやのもりデイサービスセンター
- 八起会みやのもりリハビリステーション
- デイサービスセンターこんぜの郷
- こんぜデイサービスセンター
- 八起会栗東居宅介護支援事業所
- グループホームみなくち
- デイサービスセンターあさひがおか

高齢化社会が進み、「2025年問題」「2035年問題」と国を主体とした社会問題として盛んに提起されています。そのなか、介護業界では人手不足によるサービス低下や労働環境の悪化による離職率の上昇、経営状態の悪化が危惧されています。一方、拡大を続ける介護業界の動向を受け、2000年の介護保険法が施行されて以降、異業種からの参入も増え、買収や新規事業の立ち上げなど競争が激化しています。高齢化が進む日本では、介護業界の需要拡大が期待されており、今後も介護事業を取り巻く市場は継続して伸びることが想定されています。また、今後も様々な分野からの参入が見込まれる他、大手による中小零細事業者の買収も予想されています。

ライバル企業が増えていくことで、今後は徐々に差別化が求められていくこととなりますが、介護ビジネスは制度上サービスメニューや料金が画一的なため他事業所と差別化しにくい傾向があります。そのため似たような事業所が多く存在する中で、自法人を選択してもらうためには、法人ならではの優位点をピックアップし、戦略的に他の事業所と差別化できるポジショニングを行うのが重要です。コロナの先にある介護事業経営と2024年の保険制度改定を踏まえ、介護事業者として法人が今後すべきことを検討し、地域に根差し、永続する一番事業所になるために邁進する所存です。

法人本部 方針

1. 事業運営

- (1) 法人組織の体制および事業運営などの情報開示と透明性のある健全な経営と運営を行い、地域の中で信頼される事業所を目指します。また、事業活動を通じて社会的課題の解決を支援し、持続可能な世界を実現するため、SDG s 目標達成への貢献に努めます。
- (2) 経営企画室を中核として引き続き第五次中期経営計画に取り組むことにより、「人材の確保・育成」、「安定経営に向けての事業展開」、「安定経営に向けての経営マネジメント」の3項目を軸に、差別化できる事業に進化させるよう、諸課題の検討や解決に向かっての具体化を進めていきます。
- (3) 部次長会議において理事会、評議員会をはじめ施設長会議に諮るべく諸問題や諸課題の協議調整を行います。また、本部事務局は各事業が円滑かつ公平に事業展開できるよう運営するとともに、法人本部の機能・連携・効率強化を進め、本部間および本部と事業所間での連携・調整・情報共有を図ります。
- (4) 職員の定着率をさらに上げるために「働きやすさ」だけでなく、「働きがい」を感じられる体制を整えます。職員も自発的に貢献意欲をもち、主体的に仕事に取り組めるよう職員エンゲージメントの向上により、仕事を通して得られる満足感を共有でき、職員が誇りを持てる法人を目指します。
- (5) 事務処理業務の一本化の検討および感染症発生時等の緊急時のリスク管理を目的として、事務処理業務手順の統一化やファイル保存先のルール化、事務所間での事務

員のローテーション勉強会などを行い、引き続き事務効率化に努めます。

- (6) ICTや介護ロボットの補助金を活用して見守りシステムの追加やインカムの導入など、介護現場におけるICT化を推進し、負担軽減や生産性の向上を図り、職員処遇の改善やサービスの向上、ブランド力向上に繋がります。
- (7) 地域の関係機関や団体と連携を図るとともに、在宅高齢者への情報提供やサロン事業への支援に取り組めます。また、「八起会安心パトロール隊（青パト）」の積極的支援を行うとともに認知症カフェなどを含め、これまで以上に、WITHコロナ、アフターコロナ社会を見据えた地域貢献のあり方について検討して行きます。
- (8) 地震等自然災害や感染症に対するBCP計画（事業継続計画）の策定を進め、事業継続や地域の拠点施設としての機能が果たせるよう全職員に周知徹底を図ります。
- (9) 八起会ホームページやInstagramの更新頻度を維持し、最新の情報および取組みを積極的に発信するとともに、八起会ホームページ内の各事業所ページを一新することで魅力を伝え、「SNS」の有効活用により「八起会ブランド」の強化に努めます。
- (10) 新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類相当から5類に移行されることに伴い、発生する事象に対してリスクとニーズのバランスを取りながらアフターコロナの適切な対応に努めます。また、様々な会議や行事が再開される中、途切れたノウハウの共有や引継ぎを円滑に行い、コロナ以前よりも活性化した法人運営を目指します。

2. 組織・職員

- (1) 人材を確保するための採用担当者による専門学校や大学への訪問に加え、OB、OG訪問を行います。また、学内企業説明会や各種就職説明会への参加はもちろん、就職情報サイトの活用や法人ホームページ、SNSなどの運用強化を図り、法人・各施設職員が一体となった活動を推進します。
- (2) 専門学校や大学の学生を始めとする各方面からの実習の受け入れや、介護実務者研修の施設実習、市内小・中・高等学校などの福祉・職場体験についても引き続き積極的に受け入れます。さらに、大学生のインターンシップや職場体験の受け入れも行い、複数のコンテンツを用意するなど、より職種や職場理解に繋がるプログラムを組み立て、現場職員協力のもと職員採用に繋がります。
- (3) 中途採用においては、ハローワークをはじめ就職情報サイトや人材紹介会社など職種に応じた採用手法を模索し、効果的な募集を行います。また、スクラム採用導入に向けて、権限移譲のためのマニュアル化や面接官育成に着手することで、採用力向上を目指します。
- (4) EPA介護福祉士候補生や在留資格のある外国人、障害者、高齢者など性別や国籍、年齢等に関係なく意欲と能力のある人材が生き生き、持続的に成長・発展できるよう、しっかり育成できる職場環境を作り、ダイバーシティを推進します。
- (5) 経営対策委員会を通して、収益面だけでなく、質の高いサービスを維持できるよう業

務面も考慮に入れた適正人員の算出における指標の作成を進めます。また、人事管理システムを活用し、より多くの人事情報をデータ化・共有化することにより、有資格者の効率的な配置を行い、より質の高いサービス提供と効率的な加算の取得を行える体制を構築して行きます。

- (6) 人事考課制度を正常に機能させるために、職員から考課制度の課題をすくい上げ、コミュニケーションを取りながら内容を見直し、職員とともに満足度の高い制度に作り上げて行きます。職員が自主的に目標を定め、目標や認識を共有することで、職員の業務への自発的な参加を促すことや意欲向上を目指します。また、研修履修情報等の情報管理の強化に努め、キャリアパス制度の充実を図ります。
- (7) 研修委員会と連携し、法人内の研修体系を見直し、再構築に取り組みます。知識・技術などの専門性の向上とマネジメント能力、コミュニケーション能力や豊かな感性を養う人間力の向上など充実強化を図ります。また、幹部職員や女性の管理職候補の育成を強化し、さらに利用率・入所率を上げるためにケアマネジャーや相談員を対象に「営業力」を身に付ける研修実施に取り組みます。
- (8) 管理職の労務管理能力を高め、法人内トラブルの改善、職員各自の労働環境の充実や職員の生活と仕事の快適な両立へのサポートなど、ワークライフバランスに配慮した環境整備に努め、法人全体でハラスメント予防・防止への意識を高め、把握と適切な運用や啓発活動を図ります。
- (9) 職員の自己申告等に基づく自発的向上意欲を尊重するなど、職員から意見を汲み上げたボトムアップによる事業運営を図り、職員一人ひとりに至るまで共通の意識と目標が浸透した職場づくりに向け、何でも言い合えるような風通しの良い組織を継続して目指して行きます。
- (10) 新型コロナウイルス感染症への対応における働く職員の肉体的・精神的負担が少しでも軽くなるように努めるとともに、生活習慣病予防、腰痛予防、ストレスチェックなど心身への負担緩和など、職員の健康管理に役立つ有益な情報を積極的に発信し、健康経営に努めます。また、安全衛生委員会を通じて、安全や健康を確保するための物品整理やヒヤリハットなどの情報共有により、職員一人ひとりの安全意識を高めて、八起会全体で「労災ゼロ」を目指します。

3. 財務・コスト

- (1) 収益事業に対する規制を緩和しながら競争意識を育み、財政基盤の安定化を図ります。月次報告の期限内調整により事業の執行状況や経理上の課題を的確に把握しつつ、予算の補正などの対応を適切に行い、経理規程に基づいた適正な財務管理を継続します。また、インボイス制度導入に向け、情報収集を確実にし、取引先との調整を図るとともに、システムの対応や事業所との連携を密に行い、経理業務の円滑な移行に努めます。

- (2) 法人、各事業所の資金・財産の適正管理を促進し、収支改善の実現を前提とした各事業所の利用状況・収支状況の一元的把握、経営指標の作成と経営分析などを行い、法人経営基盤の安定化を引き続き図ります。また、各事業所の事業計画を半期で評価し、より計画の実効性を高め、安全経営に努めます。
- (3) 各事業所の運営状況について、原因、課題、対策を施設長会議で共有することにより、スピーディーな原因究明と他事業所との応援体制の確保に繋がります。また、時系列に整理することにより、公表されている他法人の財務諸表との比較、当法人の強弱の把握を行い、不採算事業所の業務および人員体制の見直しをはじめ、中長期的財務戦略を検討し、今後に生かせる体制をつくります。
- (4) 光熱費や物価上昇に伴う経費増加の上昇分を吸収できる収益体制の確保に努めます。そのための選ばれるサービスづくりはもちろん、サービスの質を向上するための各事業所の加算の見直しを行い、より公平なサービスを提供できるような人員体制を図ります。
- (5) 「重要性の原則」に従って、正確かつ迅速で合理的な会計処理を進めます。さらに、事務一元化検討会議を通じて、物品の一括購入や請求業務、経理業務の一元化・統一化を進め、事務業務全体の効率化およびコスト削減に努めます。
- (6) ICT化の急速な進化に伴うハード面・ソフト面・ICTリテラシー面でのセキュリティ対策を行い、リスクの高まりに応じた法人内のサイバーセキュリティを構築して行きます。また、職員一人ひとりの情報セキュリティ意識を高める教育を強化します。
- (7) 法人事業継続のための施設建物等の改修、修繕など予算構築も含め、ランニングコスト低減を見据えた中長期大型修繕計画を策定し、計画的な修繕への対応を引き続き行います。

➤ 石部ケアハウス

今までケアハウスという器と制度で生活するうえで困っている人や不安を抱えている人、社会的に疎外されている人に対して、相談・援助を提供してきてまいりました。しかしながら、最近の相談援助内容は、とても多岐にわたるものとなってきており、身体的な障がいばかりでなく、発達障がいやパーソナリティ障がいなど、これまでとは違う問題を抱えた方々への対応として、今まで以上の丁寧な対応と関わり合いが必要であり、職員のオーバーワークやストレス等の業務負担の軽減も含め、この現状に対応していかなければなりません。

このような状況下、常にその時代、その地域のニーズに応えるという姿勢のもと、地域に根ざした施設であることを意識しながら、地域行政機関や地域医療機関との連携を密にとることで、丁寧さを失わずに入居者の方々への支援ができるように、職員個々と事業

所全体として下記の通りスキルアップを目指します。

- (1) 職員全員が、ソーシャルワーク機能を高めていくための幅広い分野での研修参加機会を増やし、研修内容を習得するだけでなく、職場にフィードバックする経験やスキルの向上も同時に行います。また、他事業所との交流や顔の見える関係を作る機会も得られ、広く社会福祉という観点から物事を見る能力の向上につながることも期待します。
- (2) 地域ケア会議に出席し、ケアハウスとはどんな機能のある施設かアピールすると同時に、地域ニーズ把握や要望なども聞き取り、我々の協力できうる情報の共有を目指します。
- (3) 法人内職員に対しても、ケアハウスを紹介する資料を作成・配布し、ケアハウスを利用したいというニーズの開拓から利用率のアップに努めます。
- (4) 数値目標
年間利用率 97% (令和4年度 95%)
八起会居宅介護支援相談所、八起会栗東居宅介護支援事業所、石部ケアセンター、あぼし、みやのもりとの情報連携に努め、入居ニーズを見逃さないようにします。
- (5) 感染症や災害が発生した場合であっても業務継続に向けた取り組みの強化のため、計画等の策定、研修の実施、訓練の実施等を進めていきます。
- (6) 職員の変更に伴う引継ぎを確実にを行うと同時に、業務内容・方法を見直しし、負担の軽減と分散化を図ります。

➤ 石部デイサービスセンター

住み慣れた家や地域、生活環境において、いつまでも「その人らしく、安心して暮らせる」生活を継続できるように支援します。幅広い多様な利用者ニーズに対応し、受入れ「地域丸ごとケア」を進め、利用者の社会的孤独感の解消と心身機能の維持と、利用者家族の身体的精神的負担の軽減を図り、地域から必要とされるデイサービスを目指します。

- (1) 数値目標
年間利用率 71.4% (令和4年度 57.8%)
要介護・要支援：月 650名 (1日平均 25名)
身体介護・医療介護で重度の方においても、できるだけ受入れます。
現在の実利用者数 60名を 70名に増やすことを目指します。
- (2) 事業所アピール
法人の居宅介護支援事業所や利用者家族との密な連携を図り、自事業所に足りない部分の把握に努め、営業活動に生かします。
- (3) サービスの向上
・利用率の向上に伴い、職員 1名当たりの利用者数が増加しても利用者満足度が低下

しないよう職員個々のスキルアップを図ります。

- ・職員による支援差をなくし、支援の共通化を図るため、マニュアルの充実を図ります。
- ・利用者および利用者家族へのアンケートを実施し、結果の公表並びに改善提案や要望に対しては速やかな対応に努め、信頼獲得に繋がります。
- ・事業所内勉強会の毎月開催し、認知症等の外部研修についても積極的に参加できるように努めます。
- ・感染症対策の強化のため、委員会の開催、指針の整備、研修の実施、訓練の実施等を進めていきます。

(4) 感染症や災害が発生した場合であっても業務継続に向けた取り組みの強化のため、計画等の策定、研修の実施、訓練の実施等を進めていきます。

➤ 八起会居宅介護支援相談所

「自立支援、利用者本位、ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保」と「介護保険制度の安定性・持続可能性の確保」の両面を考慮して運営していきます。また湖南省第四次地域福祉計画・地域福祉活動計画を参考に地域福祉を支え、安心して暮らせる地域づくりを担える事業所を目指します。そのことに基づき、八起会居宅介護支援相談所として以下の項目に重点をおいて、令和5年度の事業を行います。

(1) 事業継続計画（BCP）を引き続き構築していきます。

各種感染症や災害等の発生時においても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制を構築します。令和4年度は事業計画書の作成を行いました。

令和5年度は計画書により研修、訓練体制を強化し、継続的に支援が提供できるようにしていきます。

(2) 地域の福祉課題の解決に向けて、地域住民と一緒に取り組みを行います。

地域ケア会議への参加、自治会の区長、民生委員の集まりの場に参加し、町づくり協議会や生活支援コーディネーター等との交流、連携を密に行うことで地域福祉の課題、困り事を発掘し、情報発信、解決を行うことで地域に貢献し信頼される事業所を目指します。

(3) ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保を継続していきます。

利用者や利用者家族にその方のニーズに応じた事業所を利用していただけるよう公正中立なケアマネジメントの確保を行っていきます。そして、他法人の居宅介護支援事業所との共同の事例検討会及び地域包括支援センターによる事例検討会などへの参加も引き続き行い、地域ケア会議等も活用しながら他分野の専門職の知見に基づくケアマネジメントの技術の向上に努めます。また、自己評価や第三者評価を実施し、居宅介護支援専門員一人ひとりが資質向上の目標を掲げ、内外部の研修会や講習会に積極的に参加し制度や知識の理解、習得のため、自己研鑽に努めます。24時間連絡体

制についても継続して、さらなるサービスの質の向上に努めます。

(4) 業務の効率化と業務負担軽減の推進を行います。

サービス担当者会議等や法人内の各種会議、研修について、web 会議システム (zoom) 等をできる限り活用していきます。また、記録や保存書類について、電子媒体を活用することで業務効率化を図れるように検討していきます。

(5) 高齢者虐待の発生防止の推進を図っていきます。

虐待の防止のための対応策を検討する方策を行い、各介護支援専門員に周知徹底を図ります。さらに虐待防止のための指針を整備し、そのための担当者を配置するとともに研修を定期的実施します。

(6) 医療、福祉の関係機関との連携の推進を継続して実行していきます。

入退院時の病院や各関係機関との連携を図り、利用者、利用者家族が安心して生活していただけるように支援していきます。また、日常的に、主治医や歯科医、薬剤師、訪問看護師とコミュニケーションを図るとともに、積極的に医療機関との連携を図ります。

(7) 働きやすい職場づくりに努めます。

毎週 1 回の事例検討等の勉強会を行い、各担当ケースの情報共有をするように努めます。また、日々過酷な感情労働に携わる職種であることから、計画的に年次有給休暇を取得することでリフレッシュを行うこと、明るく笑顔の絶えない職場づくりを心掛けることにより、ストレスによるバーンアウトを引き起こさないように心身の健康管理にも十分配慮します。

➤ 石部ケアセンター

《入所》

介護老人保健施設の在宅復帰・在宅療養支援をさらに推進する観点から、基本に立ち返り利用率の向上を果たすべく努力を行うことは勿論、「包括的ケアサービス施設」「リハビリテーション施設」「在宅復帰サービス」「在宅生活支援施設」「地域に根ざした施設」等の制度下における介護老人保健施設の理念と役割を追求するとともに、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら生活機能の維持・向上を図り、家族や地域の人々・機関と協力し、安心して自立した生活が続けられるよう総合的に支援することを目指します。

そのために、令和 5 年度目標として下記の項目を掲げ、実践していきます。

- (1) 年間利用率 94%、月平均利用 71.5 床を目標としつつ、在宅復帰・在宅療養支援機能の強化を図り、基本報酬体系を現状の加算型から強化型の移行を行い、安定した収益を確保します。
- (2) 在宅復帰を目指し、利用者ごとの解決すべき課題を適切に判断し、利用者の心身機

能の維持と回復を図りながら、様々なアプローチでリハビリテーションを提供します。(寝たきり防止等、重度化防止)の取組を推進します。

- (3) 利用者の安全を確保するための取り組みとして、緊急時(災害、感染症の発生時)におけるサービスの維持継続体制の構築を行います。
- (4) 医療と介護の連携を図り、救急搬送や入院が少なくできるように、異常の早期発見、適切な医療の提供を心掛けていきます。
- (5) 住み慣れた地域においてサービスが切れ目なく提供できる取り組みとして、昨年度より構築してきた看取りケアの実施を行います。
また新たに「ターミナルケア加算」の算定を行います。
- (6) ニーズ調査を行い在宅復帰に向け利用者、利用者家族に適切な支援をしていきます。
- (7) 質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスを行い、自立支援・重度化予防対策を行います。
- (8) 職員の質の向上に向けた体制がより確立できるよう人材育成を強化します。また、外国人採用者に対する指導体制の構築とキャリアアップに資する取り組みを進めます。
- (9) 地域住民との交流及び地域社会への貢献をより推進するため、定期的な講師派遣、地域環境整備、地域巡回パトロール活動の実施を行います。
- (10) 建物・設備の定期的な点検と修繕を行い、快適性や安全を維持できる取り組みを行います。
- (11) 業務改善を進め、残業の減少、有給休暇の取得促進、仕事へのやりがい向上等に資する取り組みを行います。

《石部デイケア》

石部デイケアでは、通所リハビリテーションとして専門性を高め、様々なアプローチから利用者の心身機能の維持・向上に努めていきます。また、感染症やさまざまな災害に対応できるような対策や厚生労働省への情報提供、フィードバックを受けながら科学的に裏付けされた介護サービスの促進などに新たに取り組んでいきます。

湖南省及び周辺地域においても、地域のリハビリ事業所として、ますます求められる責任と果たすべき重要な役割を担うべく、地域との連携強化にも努めていきます。また、医療・介護などのチーム連携もより必要とされており、多職種連携を強化し、職員間のチームワークを大切にしつつ、互いに高め合い、より上質なリハビリテーションやサービスの提供ができるように努めていきます。

介護サービスというサービス事業所としての基本を念頭に置き、「挨拶」「言葉遣い」「礼儀」「気配り」といった基本的マナーを重視し、利用者家族も含めた利用者へのサービス向上に努めていきます。

そのために、令和5年度目標として下記の項目を掲げ、実践していきます。

- (1) 職員一人ひとりが法人・施設の理念を理解し、通所リハビリテーションとしての役割や機能を十分に発揮します。
- (2) 利用者の心身機能の維持と回復を図り、自立した在宅生活が継続できるよう様々なアプローチでリハビリテーションを提供します。
- (3) 利用者への適切なリハビリテーションやサービス向上のため、研修や勉強会等に参加し、より高い知識の習得や技術の向上を目指し、人材育成に努めます。
- (4) 利用回数と機能回復の有効性や通所リハビリテーションの重要性を理解していただけるよう取り組み、平均利用率70.6%（1日平均利用人数24名）を目指します。
- (5) 短期集中リハビリテーションマネジメント加算の積極的な算定を目指します。
- (6) 地域にあるリハビリテーション事業所として、地域のイベントに参加するなど、地域連携に努めていきます。
- (7) 新型コロナウイルス感染症や様々な災害に対応できるよう、感染症対策の強化やマニュアルの見直し・作成、シミュレーションなど、日ごろからの備えと業務継続が行えるよう取り組んでいきます。
- (8) 介護保険制度の目的にそって、質の評価やデータ活用などを行いながら、科学的に裏付けられた質の高いサービスの提供が行えるよう、厚生労働省への情報提供システムなどの活用を推進していきます。

➤ 八起会ホームヘルプステーション

介護報酬改定に伴い「地域包括ケアシステム」をより推進させる取り組みが急速に進み、その中で在宅医療と介護連携の推進、認知症施策の推進等を謳っており、訪問介護事業は重要な役割を担うこととなります。

以上のことから令和5年度は、以下の行動目標を掲げます。

- (1) 利用者の心身の特性を踏まえ、その有する能力に応じ、自立した生活を営むことができるよう支援を行います。
- (2) 利用者・利用者家族のよき相談相手となれるよう、職員一人ひとりの人格向上を通じ、高い倫理感と使命感の醸成に努めます。
- (3) 利用者のサービス向上のために自己研鑽に努め、月1回の会議においても研修時間を設け、より高い知識の習得や技術の向上を図ります。
- (4) 利用者の人権（プライバシー・虐待防止）と尊厳、コンプライアンスを守り、信頼される事業所を目指します。
- (5) 感染症の発生及び蔓延防止等に関する取り組み（委員会、指針の整備、訓練）を徹底し、月1回の会議において感染対策の再認識のための確認を行います。
- (6) サービスの向上を図り地域から信頼される事業所となれるように、家庭、医療系サー

ビス、他介護サービス事業所、居宅介護支援事業所、行政等との連携強化を図ります。
(7)利用者の心を和らげ安心できるよう、八起会のモットーである【にこやか・なごやか】
に努め、寄り添う介護を目指します。

➤ 介護老人福祉施設 もみじ

介護老人福祉施設もみじのある東近江市では高齢化が進んでおり、特に永源寺地区では顕著な高齢化とともに人口の減少も伴って進んでいます。東近江市の最東部に位置する当事業所は地域にとっての重要な位置づけとされており、医療・福祉の連携強化が必須となっています。とりわけ、永源寺での関係機関との連携は継続して、そして最大限に努めながら、地域にとっての必要な施設でありつづけるようにします。

昨年に引き続き職員全員の「発想力・実行力の向上」を目指し、特に利用者・利用者家族の満足度を高める介護サービスの提供を行います。生活に寄り添い、何気ない介護の中に気が利く職員となれるようにします。また、利用者が重度化しつつある中で、職員の負担を減らすように職場の環境改善や機器導入と活用をしていきます。

感染予防や拡大予防対策には留意し、動向を確認しながら引き続き全職員で対応を実施し、利用者や利用者家族への不安を軽減できるようにしていきます。

≪入所≫

- (1)入所者の選定をスピーディーに行うことで、サービスを必要としている次期利用者が入所されるまでの空床期間を短縮し、介護を必要とする方が1日でも早く入所できる体制の構築及び会議の開催を継続します。(利用率 98%)
- (2)人材育成を強化し、事業所目標、個人目標をしっかりと意識した行動を行います。
- (3)介護保険制度が在宅重視にシフトされる中、「住み慣れた地域で、安心していつまでも暮らしたい」という要望を実現させるため、長年暮らした家や家族と離れても、介護老人福祉施設もみじが安心して暮らしていただける第2の我が家となり、最終の看取りまで含めた安住の場所になることを目指します。
- (4)各感染症の予防に努め、最新の情報を取り入れ研修等を実施しながら、施設内拡大を防ぎます。
- (5)機器の導入や施設の修繕により介護負担の軽減と環境美化を積極的に行い、長く勤められる施設への環境改善を行います。

≪ショートステイ≫

- (1)在宅での生活継続を支援する事業所として、また、地域ニーズへの対応のため安定したサービスの提供を行います。(利用率 80%)
- (2)各感染症の施設内への持ち込みの可能性を最小限にとどめるため、事前に体調の把

握等の情報収集に努めます。

- (3) 空室状況は早期に各介護支援事業所に発信し、緊急での利用も可能なことも含め、利用しやすいことの情報を持続して行っています。

➤ もみじデイサービスセンター

- (1) 全体的なサービスの質を向上すると共に、幅広く利用者層を広げて利用率のさらなる向上に努めます。(利用率 75%)
- (2) 感染症対策として、施設内への持ち込みの可能性を最小限にとどめるため、事前に体調の把握等の情報収集に努めます。
- (3) 運営上の問題点は何か、そのために何をすべきかを各々が考え実行できる体制づくりを構築して行きます。
- (4) 空き情報を介護支援事業所に情報提供を行い、利用しやすい環境を継続して行います。
- (5) 各種研修の参加や自己研鑽等を促すとともに、マナーの向上や資格取得、技術の向上が図れるように努めます。

➤ もみじケアプランセンター

東近江市、特に永源寺地区の高齢化率は継続して高い水準となっておりますが、高齢者人口としては横ばいの状況です。もみじケアプランセンターでは各関係機関との連携を図りながら、永源寺地域の福祉拠点となり介護サービスへの相談の第一段階を担います。積極的に介護サービスが利用できる体制を各事業所と構築し、安心感のある相談窓口として機能するとともに、同施設内事業所との連携を強化します。

また、今後のことを見据え活動範囲を広めることも想定し、法人本部との調整を行いながら、可能な限りの利用者獲得に努めます。

- (1) 利用者や利用者家族がいつでも連絡や相談がしやすい体制を維持し、安心して在宅生活を送れるように、専門職としての知識を深め、社会資源の発掘や情報収集とその提供を行います。
- (2) 支援困難ケースの受け入れに対しても、地域の人々や他職種との連携を図り、地域での生活が維持できるように努めます。
- (3) 範囲の拡大を見据えて現状よりも幅広く各事業所との連携に努めるとともに、地域のニーズをくみ取って行きます。
- (4) 感染の拡大防止や業務効率化のため、サービス担当者会議や各研修について可能な限り ICT の活用を行います。
- (5) 加算の維持に努め、必要な研修と情報共有を行い、また実習生を受け入れ、次世代の

介護支援専門員の育成に貢献できるように努めます。

➤ 特別養護老人ホーム あぼし

令和5年度も全職員が八起会の理念、あぼし運営方針に基づき「利用者本位のユニットケア」に努めます。地域包括ケアが強化される中で、利用者・家族のニーズ、地域のニーズに対し、柔軟かつ迅速に対応できるよう、特養として求められる役割を十分に理解し、さらなるサービスの質の向上を目指します。また、地域との交流をさらに深め、交流と情報発信の拠点としての機能を強化し、地域にとって必要不可欠な施設となるよう努めます。

≪入所≫

- (1) 待機者の情報更新を随時行い、次期入所者選定に要する期間を短縮し、より多くのサービスを必要されている方に利用していただけるよう利用率の向上に努めます。
(目標利用率 98%)
- (2) コロナ禍で、入所者家族とのつながりを維持するため、ネット環境や面会設備を整備し、面会を実施していきます。
- (3) 入所者が自身の尊厳を保持しながら、その有する能力に応じ自立（自律）した日常生活を営むことができる環境条件を一層整備していきます。
- (4) 24時間365日、健康で安心した楽しい生活が送れるよう健康管理に努めます。主治医との連携を深め入所者、入所者家族の医療ニーズを尊重し、また、機能訓練指導員のもと生活上でのリハビリに取り組みます。
- (5) 入所者が快適で、自主性を尊重し安心した生活ができるよう、形式的なケアプランでなく一人ひとりのプランの充実と実施で「その人らしさ」を追求します。また、介護支援専門員が中心となり他職種との連携のもとケアプランを作成し、個別ニーズに適應するサービス提供を実施するとともに、入所者家族や関係機関との連携を密にしてサービス向上に努めます。
- (6) 食事については入所者個々の「栄養計画」に従い栄養管理を行うとともに行事食や季節感のある食事を取り入れ、「食の持つ意味」を考え、「健康保持」、「疾病予防」に努めます。また、口腔機能向上において歯科医師の指示のもと各職種と食中毒、感染対策等、衛生面にも連携し取り組みます。
- (7) 認知症ケアにおいては、より一層の専門性が求められるという視点から、認知症の行動・心理状況への緊急対応・若年性認知症対策を視野に入れ、入所者や入所者家族の希望を踏まえたサービスを提供します。
- (8) 新型コロナウイルス等の感染症に留意しながら、可能な範囲で地域との交流を深め、入所者の社会生活の幅を広げます。また、入所者のニーズを反映した季節行事

の実施に努めます。

- (9) 職員の能力向上、地位向上は、より良いケアの向上に繋がるものであり、職員一人ひとりが自覚を持って技術研修・研究に研鑽し、ケアの方針・技術・倫理の向上を図るとともに、介護福祉士の資格取得に取り組みます。
- (10) 資格取得や各研修等への参加を進め、有資格者育成に注力し、一つでも多くの加算要件が満たせるよう努めます。
- (11) 看取りケアを従来通り実施し、入所者の思いに最後まで寄り添えるように他職種連携を行いながら進めていきます。また、入所者家族に対する精神的支援においても同様に実践します。
- (12) 団塊の世代の方全員が後期高齢者となる 2025 年を踏まえ、利用者増加やニーズに対応するため、外国人介護人材を含め広く人材確保・定着に努めます。
- (13) 物価・エネルギーコスト等の高騰により施設運営への影響が懸念されるなか、適切な使用を心掛け経費削減に努めます。

《ショートステイ》

- (1) 居宅事業所との連携を密にし、幅広く利用者や利用者家族の要望に対応できる体制づくりを行い、選ばれる事業所を目指します。(利用率 75%)
- (2) 地域にとっての必要な事業所となるようサービスの質の向上に努めることにより、利用者満足度の向上を目指します。
- (3) 利用者へのサービス提供は、各利用者の個別ケア計画に基づき自らの生活習慣に沿った自立的な日常生活を営むよう援助いたします。
- (4) 各ユニットの利用者との生活の中で社会的関係を築き、レクリエーション・行事等で生きがいのある生活を援助いたします。
- (5) 利用者家族との結びつきを重視するとともに、関係市町、居宅サービス事業所、地域の福祉・医療サービスとの連携に努めサービスの向上を図ります。

➤ デイサービスセンターにこここ

認知症対応型デイサービスの役割として、高齢者が今までどおりの地域でサービスを受けながら生活できるよう、認知症についての理解が深い職員がサポートし、利用者の個性を活かし能力に応じた活動（裁縫・ちぎり絵・編み物・小物制作・体操・畑での野菜・花を育てる等）の提供をしていく事で少しでも進行を遅らせる取り組みを行っていきます。また、季節を感じられるよう四季折々の行事を行うことで懐かしい時期を思い出し、いろんな話題を提供していきます。職員が笑顔で対応していくことにより楽しい居場所を提供し、利用者家族の介護に対する思いを傾聴し少しでも寄り添える関係を構築していきます。

開設から8年が経過した認知症地域支援事業（カフェ・介護なんでも相談所等）については、今年も地域の方々の憩いの場、いつでも相談できる場として継続して開催していきます。令和5年度は、地域の方々へ研修会を開催し、認知症を知っていただく機会を設けて地域で暮らしていく為の情報提供を行う予定をしております。

最後に、質の高い認知症ケア実践のために、認知症への理解を深めること（研修への参加、ケアのポイントについて職員間で見直す機会を持つ等）を怠らず、常に専門職として自覚を持って利用者と接します。

- (1) 認知症になっても自分の個性や能力を活かし活躍していただける機会を設け、達成感を味わっていただく（壁紙制作・塗り絵・ちぎり絵・絵葉書・花壇・畑・編み物・裁縫・五目並べ等）。認知症の症状と向き合い、その方に合った物の提供。利用者家族・ケアマネジャーへの連絡・報告・相談を密にします。
- (2) 在宅での生活を維持する中で、機能訓練指導員の指導の下、リハビリを行い、日常生活能力の維持・向上を目指します。
- (3) 利用者の尊厳を大切にして、懐かしい話題（回想療法）・集団体操（百歳体操）・脳トレ（計算問題・間違い探し）・歌等のストレスなく笑顔が多く見られるような関りを心掛けます。
- (4) 収入面においては、昨年度の実績（年間平均利用率≒60%）を踏まえた上で今年度の年間利用率目標を65%（平均利用者数7.8名/日）とします。体調不良等による急な休みやショートステイの利用等により高い利用率を維持できない傾向が続いているため、既存の利用者に対して利用回数を増やす方向で見直しできないかを検討、さらに新規登録人数を増やし裾野拡大に努めることから恒常的な高利用率維持を目指します。その為に、当事業所の特徴をアピール（利用者家族への手紙・ブログ掲載・広報活動）、居宅介護支援事業所との連携をとり、目標達成を目指します。
支出面では、変動費（水道光熱費や物件費）の削減に努め、経常利益率を高めます。
- (5) 「地域における公益的な取り組み」として、地域の方々が気軽に来てくださる憩いの場として、「ここにこカフェ」・「介護なんでも相談所」を継続して月2回開催します。そこで、開催が楽しみになるような内容として、認知症の勉強会や啓発活動、悩み相談を積極的に行うことで、認知症や介護保険制度等に関する理解を深めつつ、八起会に興味を持っていただける機会を作っていきます。また、地域の方々を対象に「介護者の集い」を今期も年2回開催し、さらに認知症の講演会を開催して、より多くの方に少しでも認知症を理解していただけるよう取り組みます。
- (6) 新型コロナウイルス対策として、感染症対策の徹底に努めます。

➤ 地域密着型特別養護老人ホームみやのもり

令和3年度から「サービス・ケアの質の向上」を目標に掲げ、看取りケアを含め一人

ひとりのニーズに合わせた多様なサービスの提供に努めてきました。令和5年度もさらなるサービスの質の向上ができるよう、職員の育成や感染対策、業務改善・効率化を図り、「地域から選ばれる施設」を目指します。

施設としての「社会的責任を果す」・「事業として適正な利潤を求める」ために、待機者から次期入所者の選定については、事前の面接を徹底して「退所から入所」までの待機期間の短縮に努めます。また、入所者の健康管理に留意し、病状等に対し、早期発見、早期治療を行うことで重症化を防ぎ、長期入院等に至らないよう努めていきます。さらに、感染症等にも細心の注意をはらい、施設内での感染拡大しないよう予防対策に努めます。感染症が懸念される中ではありますが、できる限り地域との交流を行い、八起会として地域に貢献できる活動も行っています。

年々、利用者が重度化しており、職員の負担が増加しつつある中、職員の体調管理を含め、利用者が安心・安楽に生活できるように ICT 等の活用も進めています。

令和5年度も「特別養護老人ホーム入所者の医療ニーズへの対応・認知症高齢者への専門ケア等」の実現を目指すために、「認知症の各研修」・「介護福祉士」等の有資格者育成に注力します。

併設ショートステイについては、利用者・利用者家族の満足度を上げられるよう、多様化するニーズに応えながら、緊急時のレスパイト的な利用も対応しながら、長期利用者の受け入れを積極的に行いながら利用率の向上を目指します。また、居宅介護支援事業所との連携を密に図り、新規利用者の受け入れを積極的に進めています。

《入所》

- (1) 入所者の個々の生活リズムや価値観を尊重し、住み慣れた地域でこれまでの生活と変わることなく過ごせる環境づくりを行います。
- (2) 健康で安心した生活を送れるよう、主治医との連携を深め、入所者や入所者家族の医療ニーズを確認し合い、寄り添いながら健康管理に努めます。
- (3) 入所者の自主性の尊重と自立の支援を行い、安心した生活を送れるよう、食事・入浴・排泄・機能訓練を含め充実したケアプランを作成し、一人ひとりの特性に合わせたサービスの提供に努めます。
- (4) 施設で終末期を迎えられる入所者に、本人の思いに近づけられるよう他職種間や入所者家族との連絡を密にとり、人生最後の時間を安心して過ごしていただけるよう看取りケアを実施します。
- (5) 感染対策マニュアルや災害時マニュアルの見直しを行うと共に、全職員への周知・徹底をしていきます。
- (6) サービスの向上につながるよう職員一人ひとりが自覚を持ち、研鑽を積み、能力向上を目指すことで互いに成長し、基本的マナーの向上に努めます。
- (7) 地域密着型サービスであることを常に意識し、「地域と共に歩む施設」の実現に向け

て、感染症対策を行いながら可能な範囲で、積極的に地域・近隣の方々との交流を実施し、入所者の社会生活の場を広げられる支援に努めます。

《ショートステイ》

- (1) 在宅で生活されている要支援・要介護者の自立へ向けての支援サービス、また、利用者家族の介護負担の軽減を図れる支援に努めます。
- (2) サービス提供に関して、各利用者の個別ケア計画に基づき、個々の生活習慣に沿った日常生活が送れるよう、他職種・併設デイサービス職員との連携を図りサービス向上に努めます。
- (3) 利用者に生活意欲を見出せるなど、刺激ある時間を提供するとともに、地域社会に関われる交流の場としても活用できるサービスを提供します。
- (4) 在宅での生活継続を念頭に置き、筋力低下を防ぐため生活リハビリを提供します。
- (5) 福祉を提供する職員として倫理観を高め、利用者・利用者家族に満足していただけるサービスを提供するため、接遇の向上に努めます。

➤ みやのもりデイサービスセンター

在宅介護が重視される中、リハビリを目的とされる軽度な方から重度の認知症高齢者や医療依存度の高い方など、デイサービスのニーズは多様化しています。地域包括ケアシステムにおける、デイサービスの役割を十分に果たせるよう、みやのもりデイサービスセンターの設備や環境等を活かし、多様化するニーズに迅速かつ柔軟に対応していくことで、地域の中から選んでいただけるよう努めていきます。

また、感染症が懸念される中で活動内容が制限されることもありますが、安心して利用していただけるよう感染対策をしつつ、新たな行事や企画にも取り組んでいきます。そして、可能な限り地域との交流やショートステイとの連携を深め、より多くの利用者に継続的に利用をしていただけるよう努めます。

- (1) 利用者に、笑顔と自分らしく生活していただくため、利用者、利用者家族、関連事業所等との連携を密に取り、可能な限り継続的な在宅での生活を支援します。
- (2) 利用者が満足し、かつ活躍の場を見出せるようなレクリエーションや行事を企画し、身体的精神的機能の維持・向上に努めます。
- (3) 在宅で生活されている要支援・要介護者の自立へ向けての支援サービス、また利用者のみならず、利用者家族の介護負担の軽減を図れる支援に努めます。
- (4) 職員へ各種研修参加、資格取得、自己研鑽等を促すとともに、「挨拶」「言葉遣い」といった基本的マナーの向上と専門職としての技術向上を図れるように努めます。

➤ 八起会みやのもりリハビリステーション

総合事業の目的である「健康づくりと介護予防」を実現していけるよう、みやのもりリハビリステーションの強みであるリハビリ機器を最大限活用し、利用者が在宅で「自立した生活」、「安心・安全な生活」を継続できるよう、リハビリステーションの役割を果たしていきます。また、リハビリステーションに通うことで、生活の意欲や生活の中の楽しみの一つとなるよう、働きかけていきます。

- (1) 専門的な知識、技術を元にリハビリプログラムを実施します。
- (2) 利用者の意思、人格を尊重し常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。
- (3) 行政や居宅介護支援事業所との連携を密に図り、利用者が生き活きと在宅生活を送れるよう支援します。

➤ デイサービスセンターこんぜの郷

認知症高齢者が住みなれた自宅・地域で生活が継続できるよう、認知症対応型通所介護の役割を十分に理解し、特性を活かしながら運営していきます。また、地域推進事業や地域の活動等を通して、認知症ケアの重要性をより理解していただけるよう取り組んでいきます。

介護については、その人らしさを大切に意志や人権を尊重し、一人ひとりに合わせた環境づくりや自己実現、自己表現ができるデイサービスを目指します。また、認知症高齢者を抱える家族の介護負担の軽減が図れるよう、相談や援助等を行い利用者だけでなく利用者家族からも信頼され、必要としていただける事業所を目指します。

各居宅介護支援事業所や行政との連携を図り、デイサービスセンターこんぜの郷を地域に深く浸透させ、年間平均利用率 15%を目指します。

令和 5 年度の目標として、下記の項目を挙げ実践していきます。

- (1) 八起会栗東居宅介護支援事業所及び他居宅介護支援事業所と連携を図り、栗東市の認知症高齢者の「よりどころ」となるよう受け入れ態勢を整備します。
- (2) 地域密着型事業である認知症対応型通所介護の特性を打ち出し、利用者にとって穏やかな時間と空間が過ごせるように努め、他の一般型通所介護事業所との差別化を図り、利用者及び利用者家族にとって必要とされる事業所を目指します。
- (3) その人のプライバシーを守り、「人権」と「尊厳」を尊重し、その人の「できる」を奪うことなく、いつまでも継続できるように支援します。
- (4) 利用者に満足していただけるサービスを提供するために、職員一人ひとりが事業所の目標を理解し、現状に満足せず自己研鑽に励みより良い認知症ケアに励みます。
- (5) 利用者の残存機能等を活かし、生活意欲の向上につながるような行事やレクリエー

ションを企画し、サービスの向上に努めます。

- (6) 認知症対応型通所介護の特色や必要性を地域の方へ理解していただけるよう、地域活動への参加や講習会などを企画していきます。また、認知症カフェ（にこにこカフェ）も引き続き行政と連携しながら実施していきます。（年間開催回数 12 回）
- (7) 感染症対策の為、指針の整備や研修、訓練の実施、最新の情報を取り入れます。外部から事業所内への持込を最小限にとどめる為、「新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」を活用し徹底して感染予防に努めます。

➤ こんぜデイサービスセンター

在宅介護が重視されている中、各居宅介護支援事業所や医療関係者との連携を図りながら、通所介護の役割を十分に理解し、地域に根ざした運営に努めます。多数ある通所介護事業所の中から、当事業所を選択していただけるよう、施設の特色（リハビリ設備や入浴設備など）を活かし、利用者・利用者家族のニーズにできる限り対応していただけるよう努め、年間平均利用率 70%を目指します。より一層サービスの向上、介護の質の向上を目指し、人格・人権を尊重し、満足していただけるサービスの提供に努めます。さらに、地域との関わりを増やしていただけるよう、感染症対策を徹底し、ウィズコロナで地域活動等の参加にも積極的に取り組み、信頼していただける施設を目指します。

令和 5 年度の目標として、下記の項目を挙げ実践していきます。

- (1) 利用者に満足していただけるサービスを提供するために、職員一人ひとりが施設の目標を理解し自主自立の考えで個々の能力の向上に努めます。
- (2) 八起会栗東居宅介護支援事業所、他の居宅介護支援事業所及び関係機関等との連携を図り、地元の皆様から信頼され、信認される事業所となるように努めます。
- (3) 利用者にとって楽しく、心安らぐ、居心地の良い事業所（場所）となるように、介護についてはもちろんのこと、挨拶、接客態度、言葉遣い等、研鑽に励み、満足していただけるサービスを目指します。
- (4) 利用者の意向を重視しながら、自立支援を念頭に置き、利用者の残存機能を活かし、生活意欲の向上につながるような、行事やレクリエーション、生活リハビリを実施し、利用者に関わる者の満足度の向上に努めます。
- (5) 感染症対策の為、指針の見直しや研修、訓練の実施、最新の情報を取り入れます。外部から事業所内への持込を最小限にとどめる為、「新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト」を活用し徹底して感染予防に努めます。

➤ 八起会栗東居宅介護支援事業所

令和 5 年度の事業を以下の項目で実施し、地域から信頼される事業所を目指します。

- (1) 「住民に身近な圏域」での「我が事・丸ごと」他人事を「我が事」に変える働きかけを地域に発信し、「どのような地域に住みたいか」を話し合える土壌づくりを行い、「楽しい」「やりがいがある」と思わせる取り組みを地域住民に促し、「深刻な状況にある人」に対して自分たちのチームで何かできないかと思える意識づけを行います。
- (2) 新型コロナウイルス感染症のマニュアルに沿って、訪問時のソーシャルディスタンスや事務所・車内を消毒等により衛生面を保ちます、また法人の感染症対策研修に参加して常に意識できるよう取り組みます。
- (3) 栗東市内 5 事業所との合同の研修会についても 6 月と 11 月の年 2 回参加します。毎週 1 回の事例検討会等を通して、アセスメント力やマネジメント力等支援技術について向上するよう取り組みます。また、今年度はこんぜデイサービスも月に 1 回合同での事例検討会を開催して、スキルを共に向上させます。
- (4) 介護支援専門員のメンタル（精神面）について、計画有給休暇制度等も活用し、一人で抱え込まずバーンアウトにならないよう、他の介護支援専門員でフォローできる体制を構築します。また、常に相談できる体制をとり、チームワークを大切にしていきます。
- (5) 各種人権研修に積極的に参加し、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを起こさないよう八起会の一員としての自覚を持ちます。
- (6) 災害時には事業所独自のマニュアルに沿って、①停電時の対応（エアマット、電動ベッド、吸引器や在宅酸素等）②利用者の状況（同居家族、親族）③安否確認の優先順位④利用者情報（緊急連絡先等）と市内の防災マップや事業所のリスク管理（データ管理）を迅速に行い、法人や栗東市（包括支援センター）、金勝地区と連携をして対応する。その為に、自身の生命を最優先に守り、各関係機関との連絡体制の確保を行います。
- (7) 利用者、利用者家族からの信頼関係を構築し苦情が起こらない居宅介護支援事業所を創ります。
- (8) 新型コロナウイルス感染症の収束に尽力し、健全な居宅運営に取り組みます。大地震などの災害が発生すると、通常通りに業務を実施することが困難になるため、業務を中断させないように準備するとともに、万が一、中断した際でも優先業務を実施できるよう、あらかじめ検討した計画書としてまとめておきます。BCP（業務継続計画）を作成し、不測の事態が発生しても、重要な業務を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるよう、居宅介護支援事業所として取り組みます。
- (9) 2023 年から始まる『ケアプランデータ連携システム』について、システムの対応状況をみながら、業務負担の軽減および効率化につながるよう検討していきます。

➤ グループホームみなくち

グループホームみなくちは、入所者の尊厳や人権を尊重しながら、認知症になっても住み慣れた地域の中で安心して生活していただけるよう、常に質の高いサービスを提供しながら入所者と生活を共にするパートナーであり続ける介護を目指します。また、職員一人ひとりが他者にやさしく思いやりの意識を持ち、異なる考えや行動に配慮しながら、尊重し合える職場を目指し、入所者も職員も笑顔の絶えない職場づくりを目指します。

(1) 質の高いサービスの提供

- ・様々な認知症の症状に対する適切な知識や技術を内部研修や外部研修を通し身につけることでサービスの質の向上を目指します。
- ・入所者の気分転換やストレス緩和に努め、定期的に行事やレクリエーションを行い穏やかに生活していただけるよう努めます。
- ・入所者の心身の状態の観察と細やかな気づきにより重度化を防ぎます。
- ・ヒヤリハットの意識を高め、事故につながらないよう安全管理を徹底します。
- ・人生の最期まで安心してグループホームで過ごしていただけるよう、医療機関や利用者家族との連携を密にし、事例を振り返りながらグループホームでの看取り介護を充実させます。
- ・入所者の嗜好品の購入など、地域資源を活用しながら、なるべく利用者家族に負担がかからない方法を常に検討していきます。
- ・入所者への接遇を向上する上で必要な定例会議を行い、サービスの内容が適切であるか確認し、より良いサービスの提供を目指します。
- ・防火、防災、救命、防犯等、研修や訓練を実施し必要物品の確保や設置を行います。

(2) 利用者家族との関係づくり・連携

- ・個別のカンファレンスを含め、入所者の様子をこまめに連絡しながら家族とのつながりが途絶えないように支援します。
- ・オンライン環境での面会を継続しますが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて工夫しながら直接面会が可能になるよう努めます。
- ・入所者の緊急時に利用者家族も迅速に対応していただけるよう、職員と利用者家族の関係づくりに努めます。

(3) 地域との風通しの良い関係づくり

- ・運営推進会議を2ヵ月に1回開催し、事業所の運営について理解を図り、地域との交流・情報交換を行います。
- ・事業所周辺のごみ拾いや地域の活動に積極的に参加し、互いの理解を深めながら協力できる関係づくりに努めます。

- ・感染症の時期を見計らいながら、地域の中学校や高校などの職場体験や実習・行事等の受け入れを積極的に行います。

(4) 目標利用率 97%を目指します

- ・入所者の体調変化の早期発見に努め、早期治療により入院日数を少しでも減らします。
- ・入所についての問い合わせは、利用者家族の立場を考え親身に親切な対応を行い、施設見学や説明を積極的に行います。
- ・毎月、入所検討委員会を開催し、次期入所者の選定を行います。入所申し込みをされた場合は、速やかに本人面接に伺い情報収集します。
- ・入所待機者確保のため、インターネットによる申し込み対応や、居宅支援専門員との関係づくりに努めます。
- ・4/1より短期利用認知症対応型共同生活介護を開始し、空床ベッドを利用していただけのように働きかけます。
- ・感染症を事業所内に持ち込まないよう、職員全員が個々の家族を含めて体調管理するとともに、感染対策の徹底を継続します。

➤ デイサービスセンターあさひがおか

デイサービスセンターあさひがおかは、認知症対応型通所介護事業所として、認知症の専門的なケアを提供し、利用者の社会的孤立の解消、心身機能の維持・回復、利用者家族の負担の軽減を目指し、利用者が可能な限り住み慣れた自宅または地域で生活を継続できるよう、在宅生活全体を支えます。また、「デイサービスセンターあさひがおか」のチームワークと特性を活かし、利用者・利用者家族・地域・ケアマネジャーに選んでいただける事業所を目指します。

(1) 目標利用率 55%を目指します。

- ・目標利用率を達成するため、1日7人以上の利用を目指します。
- ・居宅介護支援事業所との良好な関係を築くため訪問回数を増やし、具体的なサービス内容と空き状況の紹介を行い、新規受け入れ等の相談や担当されている利用者とその家族の意見や要望を聞き取り、協力し合える関係づくりに努めます。
- ・感染症を事業所内に持ち込まないよう、事前に利用者や利用者家族の体調の把握に努め、感染症の持ち込みがないよう徹底するほか、職員も自己管理を徹底します。
- ・重度な認知症であっても、デイサービスで安心して1日を過ごしていただけるケアや対応を行い、家族の介護負担軽減ができるように努めます。また、利用中の様子を家族や介護支援専門員に伝え、安心してご利用していただけるようにします。
- ・職員の専門性を活かし、利用者の個々に応じたレクリエーションや機能訓練を提供し、心身ともに充実した時間を過ごしていただけるよう努めます。

(2) リスクマネジメント（安全対策・防災対策・防犯対策）

- ・ 公用車使用の際は使用前後の車両の確認を行い、安心して利用者の送迎ができるよう心がけるとともに、危険箇所等の情報確認と共有を図り安全運転します。
- ・ 新規利用者受け入れの際は、自宅周辺の状況を把握し安全に送迎できるか確認します。近隣に迷惑がかからないよう事前に調整し配慮します。
- ・ ヒヤリハットの意識を高め、介助中の事故や送迎中の事故につながらないよう安全管理を徹底します。
- ・ 防火、防災、救命、防犯等、研修や訓練を実施し必要物品の確保や設置を行います。

(3) 地域との風通しの良い関係づくり

- ・ 運営推進会議を半年に1回開催し、事業所の運営について理解を図り、地域との交流・情報交換を行います。
- ・ 事業所周辺のごみ拾いや地域の活動に積極的に参加し、互いの理解を深めながら協力できる関係づくりに努めます。
- ・ 感染症の時期を見計らいながら、地域の中学校や高校などの職場体験や実習・行事等の受け入れを積極的に行います。